

中村拓磨

ジョージア工科大学, 航空宇宙工学科

2017年10月 留学報告書

前回,色々と資金面で苦勞した話をした.ただ,それは比較的長期の NASA の予算が付き,そのプロジェクトに振ってもらえたおかげで解決したように思った.しかし,僕がインターンでアトランタを離れている間に教授がペンシルバニア州立大学(Penn State)に引きぬかれ,僕がアトランタに帰って来る頃には教授がいない,という急展開を見せる.予算の件は再び振り出しに戻ったように思える.またもや来季の授業料の出所すら不明だ.

卒業まであと1年程度のところまで研究は進んでいて,来月には Thesis Proposal を予定している.予算の件は不明だが, Penn State に引きぬかれた僕の指導教官の下で博士号は取れるそうなので,転校はせずに Georgia Tech の航空宇宙工学の博士号を取得予定である.

教授が大学を移ることはアメリカでは珍しいことではない.僕の Committee の教授の一人は MIT から数年前に引きぬかれた人物である.僕と同じように指導教官が引きぬかれ指導教官を変えた人もいる.引きぬかれた教授と共に Georgia Tech に転向してきた友人もいる.僕にも転校や指導教官を変えるといった選択肢があったが,卒業が近いこと,転校先の学位よりも Georgia Tech の学位が欲しいこと, remote でも大部分は支障のない研究であることなどを考慮しひとまずはアトランタに残ることにした.

博士過程の学生は,基本的には卒業後のプランが決まるまで卒業しない.僕は,夏の間インターンとして働いた某米系大手の Tech 企業から Full-Time のオファーをもらった.その企業に就職するかどうかは決めていないが,インターンの経験から僕は卒業後の最初のキャリアは米系の Tech 系の企業へ行こうと考えている.給与などの待遇だけでなく,エンジニアとして心躍る仕事に集中できる環境が整っていると思った.

最後に,僕がインターンで働いている期間中にインターン先の企業が超大型買収を投じ,ニュースの話題をかつさらった.その例に限らなくても,最近のアメリカの Tech 企業は話題に事欠かない.少しミーハーな気もするが,世界の中心で働いているような興奮を覚えた.自分の書くコードが世界中で使われ,世界のシステムを変えて行くというのは末端の人間でも楽しいものであると思った.周りの人間のレベルもとても高く快適だった.永住権すら持っていない航空宇宙工学の人間には,アメリカでそんなに就職先の選択肢がない.そんな中で, Tech 系(ビザの制限があまりない)の企業が僕の分野に入ってきてくれるのは結構運の良いことだと思う.もうしばらくはアメリカで楽しく働けそうだ.